

授業科目 装具学特論

【担当教員名】 坂井 一浩 他		対象学年	4	対象学科	義肢
		開講時期	前期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【一般目標：G10】 義肢装具士に求められる実践的な技能を身につけるために、症例もしくは仮想症例を通じて、医療面接、機能評価、採寸・採型、製作、および適合技術と関連する問題解決能力を修得する。					
【行動目標：SBO】 1. 医療面接を正しく行える。 2. 機能評価を正しく行える。 3. 得られた情報から装具の使用目的を明らかにし、これに合致する装具のデザイン検討が行える。 4. 採寸・採型・トレースなど、対象身体部位の形状獲得作業が正しく行える。 5. 材料加工、装具構成要素の組立てを正しく安全に、かつ効率的に実践できる。 6. 装具の対象者への適合と評価を的確に行うことができ、適合に関する問題に正しく対処できる。 7. 情報整理、記録、およびこれらの報告が正しく行える。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	医療面接			1	実習
2	機能評価			2	実習
3	得られた情報に基づく装具のデザイン検討			3	演習
4	身体形状獲得および修正			4	実習
5	材料加工と組立て			5	実習
6	仮合わせ適合のプロトコールと問題解決			6	実習
7	症例プレゼンテーション			7	ディスカッション
8	まとめ				
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書	最新 義肢装具ハンドブック	三上真弘 他	全日本病院出版社	2007・7,000円	
	Atlas of Orthoses and Assistive Devices	Bertam Goldberg, John D. Hsu 他	Mosby		
その他の資料					
【評価方法】 併行して開講する『装具学特論実習』と共に、以下の二項目で総合評価する： 1. 技術レベル（臨床工程および製作工程） 2. 知識レベル（ケースレポート）			【履修上の留意点】 履修登録者数を制限する。 履修希望者が多数の場合、1～3年次における装具関連科目の成績で判断する。		